

### 3. 防犯について

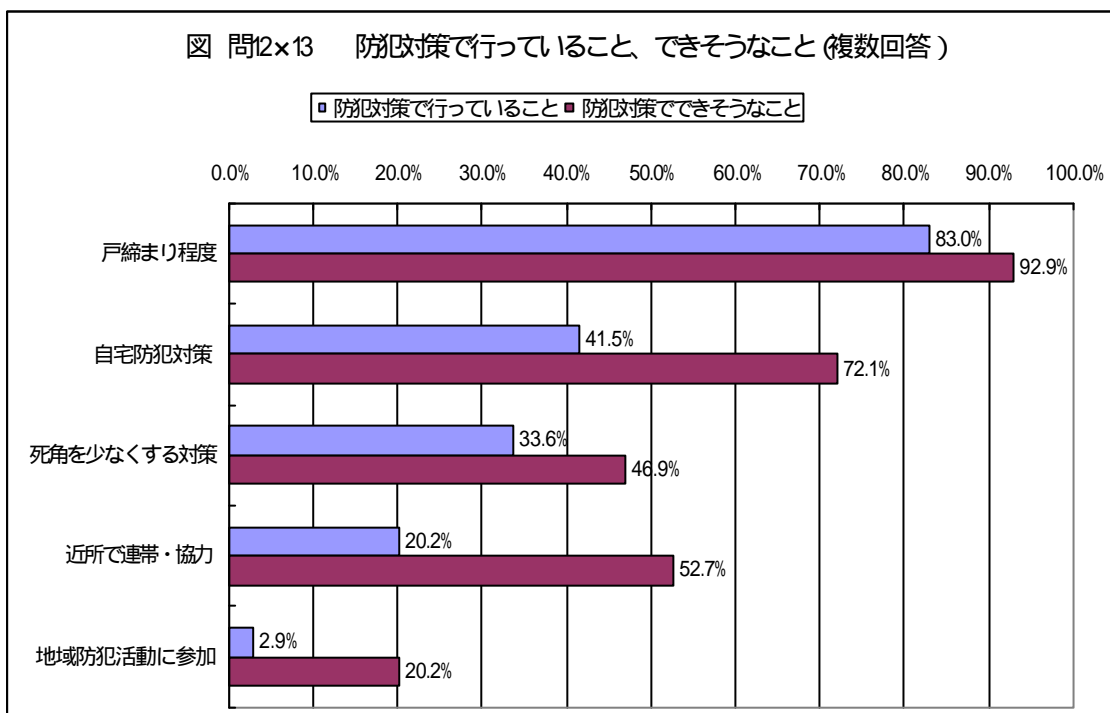
問 1 1 最近、身近で治安が悪くなったと感じることがありますか。		
1	ある	1099 68.3%
2	ない	497 30.9%
	無回答	13 0.8%
問 1 2 あなたは防犯対策のために、どのようなことを行っていますか。 (あてはまるものをすべて選んでください。)		
1	戸締まり程度	1336 83.0%
2	自宅の防犯対策 (玄関ドア鍵対策、窓ガラス対策、防犯ブザーなど)	667 41.5%
3	玄関灯、門灯の点灯や生垣・塀を低くするなど、 屋外の死角を少なくしている	541 33.6%
4	隣近所で声を掛け合うなど、連帯や協力を努めている	325 20.2%
5	地域で犯罪情報収集や防犯パトロールなど、 抑止力を高める防犯活動に参加している。	47 2.9%
6	その他	45 2.8%
	無回答	15 0.9%
問 1 3 計画的、組織的犯罪が増えている中、あなたができそうな防犯対策は どのようなことですか。(あてはまるものをすべて選んでください。)		
1	戸締まり程度	1495 92.9%
2	自宅の防犯対策 (玄関ドア鍵対策、窓ガラス対策、防犯ブザーなど)	1160 72.1%
3	玄関灯、門灯の点灯や生垣・塀を低くするなど、 屋外の死角を少なくする対策	755 46.9%
4	隣近所で声を掛け合うなど、連帯、協力	848 52.7%
5	地域で犯罪情報収集や防犯パトロールなど、 抑止力を高める防犯活動へ参加	325 20.2%
6	その他	27 1.7%
	無回答	12 0.7%

防犯については、問 8 で「最も重要な課題だ」とされたが、問 11 では「身近で治安が悪くなったかどうか」をまず質問した。悪くなったと感じることが「ある」が 68.3 %で約 3 分の 2 を占めていた。

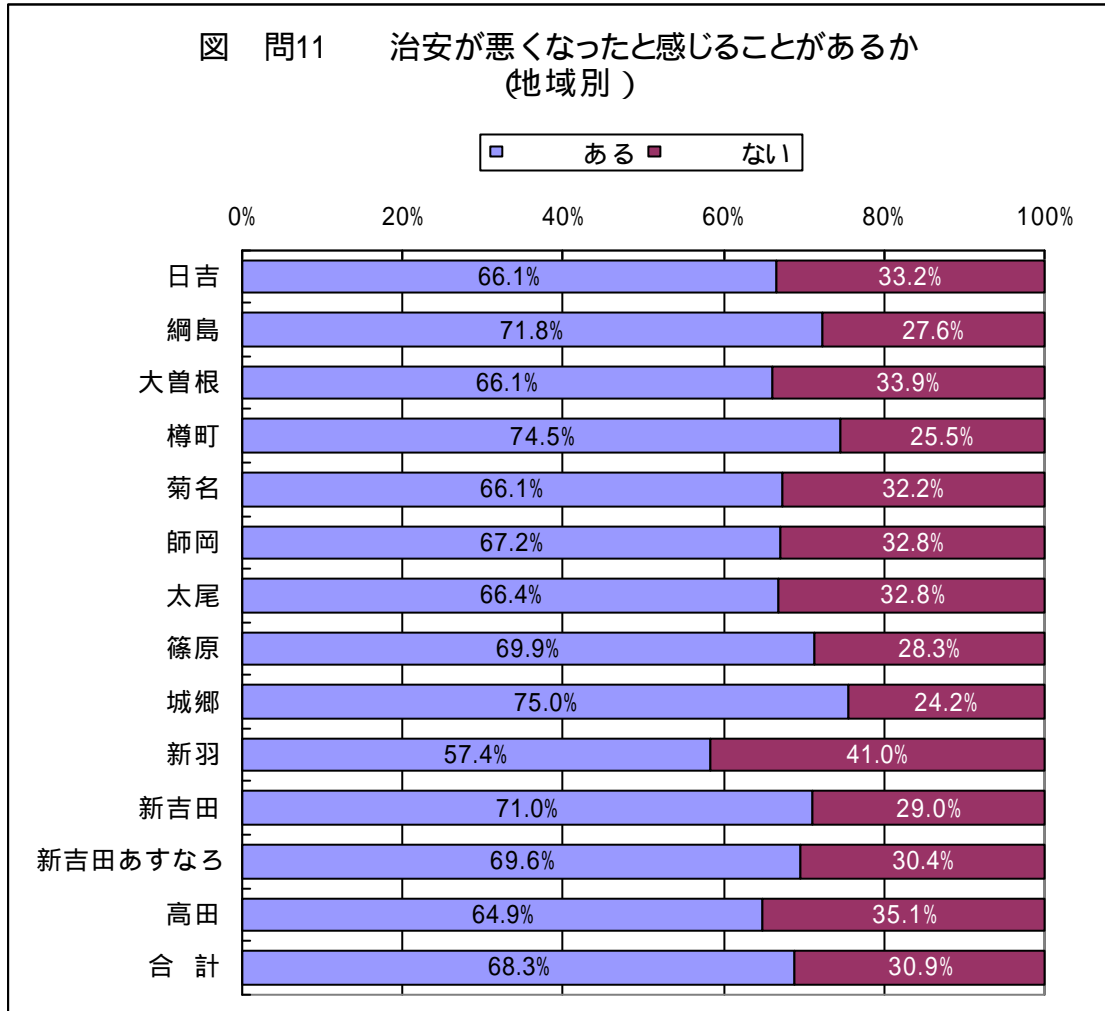
続いて問 12 では、実際に「防犯対策のために何を行っているか」を質問したが、「戸締まり程度」が 83 %で圧倒的に多く、「自宅の防犯対策」が 41.5 %で約 4 割、「屋外の死角を少なくする対策」が 33.6 %で約 3 分の 1、「隣近所で声を掛け合うなど、連帯、協力」が 20.2 %で約 2 割となっていた。

また問 13 では、「あなたにできそうな防犯対策」について質問したところ、「戸締まり程度」が 92.9 %で9割以上で圧倒的に多く、「自宅の防犯対策」が 72.1 %で約7割、「隣近所で声を掛け合うなど、連帯、協力」が 52.7 %、「玄関灯、門灯の点灯や生垣・兵を低くするなど、屋外の死角を少なくする対策」が 46.9 %となっていた。

この回答によると、実際に行っている防犯対策より、できそうな防犯対策の方が大きく上回っており、「できそうな防犯対策は」多くあるものの、実際の対策はそれに及ばずまだ不十分であるという答えであった。



問 11 で「治安が悪くなったと感じたことがあるか」質問したが、地域別に「感じたこと」が「ある」割合をみると、城郷、樽町、網島地区でそれぞれ 75.0 %、74.5 %、71.8 %と平均より高くなっているのに対して、新羽、高田地区では 57.4 %、64.9 %と平均より低くなっていた。

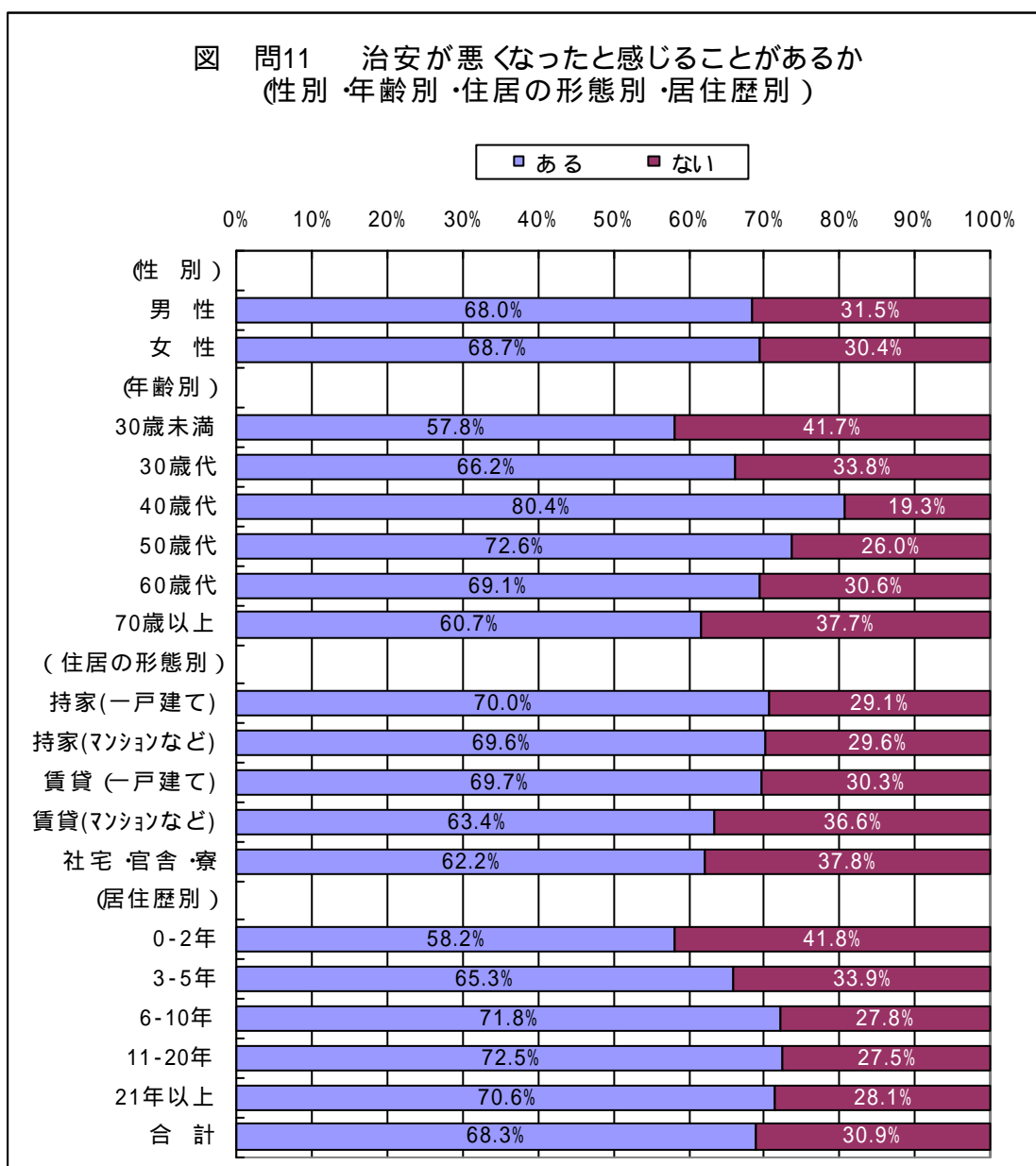


回答者の属性でみると、性別ではまったく変化が見られず、住居の形態別、子どもの年齢別などでも変化が見られなかった。

年齢別では、「40歳代」で約8割が「治安が悪くなったと感じることがある」と答えており、それ以降は加齢に従って少なくなっていく。逆に「30歳未満」は感じる人が6割弱にすぎなかった。

居住歴別で見ると、「3年未満」で「ある」が約6割と最も低く、居住歴が長くなるに従って「悪くなった」と感じる人が「ある」割合が高くなっていく。

また、家族構成別で見ると、「ひとり暮らし」は、感じる人が「ある」割合が約5割と低く、「夫婦だけ」、「親と子(2世代)」、「親と子と孫(3世代)」になるに従って「ある」が増加する傾向がはっきり見られた。



問 11 で「治安が悪くなったと感じることがあるか」を質問しているが、ほぼ同様の質問を横浜市都市経営局の「平成 15 年度市民意識調査」でも行っている。

Q 13 あなたは、5 年前と比べて現在住んでいる地域における犯罪の発生状況についてどう感じていますか。			
(ア) 非常に多くなったと感じる	10.6	(エ) 少なくなったと感じる	1.1
(イ) 多くなったと感じる	39.6	(オ) 非常に少なくなったと感じる	0.6
(ウ) 変わらない	29.1	(カ) 分からない	19.2
Q 14 あなたは、現在住んでいる地域において、犯罪や事故など安全について不安を感じるがありますか。			
(ア) 不安を感じる	28.4	(ウ) あまり不安を感じない	18.5
(イ) 多少不安を感じる	49.3	(エ) 不安を感じない	3.8

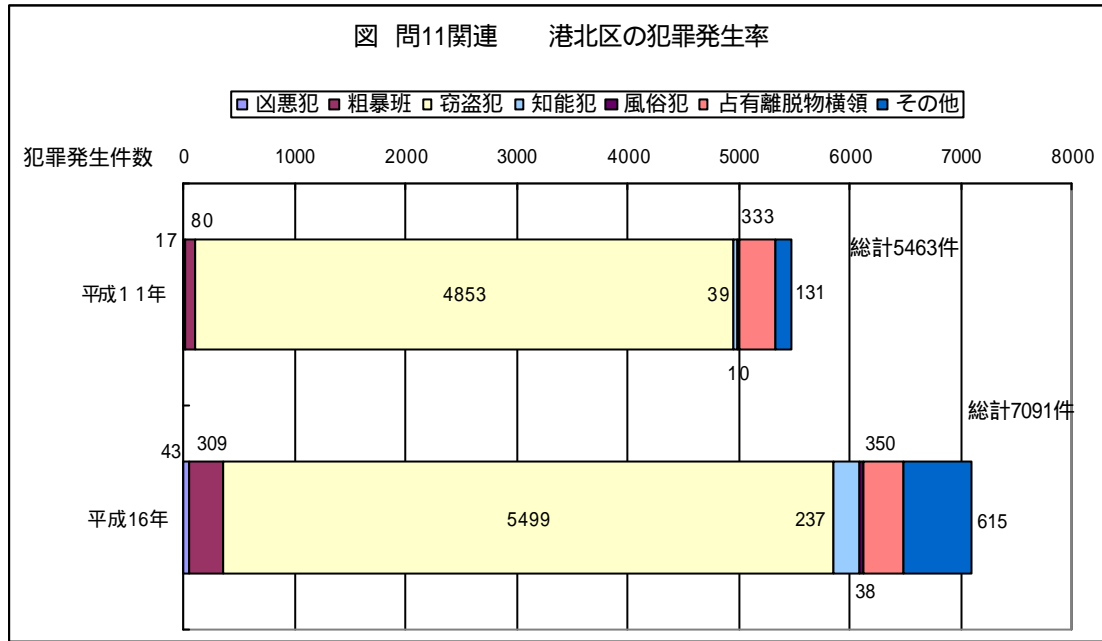
今回の調査における設問と選択肢が違っているため、単純に比較することはできない。

横浜市の調査では、犯罪の発生状況については「非常に多くなった」「多くなったと感じる」を合わせて 50.2 % とほぼ半数であり、犯罪や安全についての不安については「不安を感じる」「多少不安を感じる」を合わせて 77.7 % と 8 割弱が不安を感じている。また、区別の調査結果を見ると港北区は、犯罪が「多くなった」と感じる人が 58 %、不安を感じる人が 83 % となっており、全市平均より高くなっていたのが注目された。このことは、同じ調査の「市政への要望」のなかで「防犯対策」が 36.2 % と最も高くなっていたことと合わせて、防犯対策が大きな課題になっていることは確かなことであった。(なお、「平成 16 年度市民意識調査」における「行政が充実すべきもの」でも防犯対策が第 1 位であったことは、本報告書「1 暮らしの課題」の中でもコメントしている。)

ちなみに、港北区内の犯罪件数を平成 11 年と平成 16 年の統計で見ると次のグラフのようになっていた。犯罪発生件数は 1628 件増加し増加率 130 % であった。

犯罪件数で最も多いのは「窃盗犯」で全体の 77.5 % を占めており、発生件数も 11 年の 4853 件が 16 年には 5499 件に 646 件も増加し、犯罪発生増加件数の 39.7 % で約 4 割を占めていた。犯罪の発生件数が急激に増加したのは「知能犯」であり、11 年に 39 件であったものが、16 年には 237 件に 198 件増加しており、11 年の 6 倍となっていた。続いて発生件数の増加率の高かったのは「その他」で、発生件数で 484 件増加し、増加率 469 % と 5 倍弱となっていた。次に犯罪発生件数の高かったのは「粗暴犯」であり、発生件数が 229 件増加し、増加率では 386 % と「その他」と同じような伸びを示していた。

このように港北区内における急激な犯罪発生件数の増加は、このアンケートで「治安が悪くなったと感じることがある」と答えた人が 78.3 % と 8 割近かったことを裏付けていた。



問 12 ~ 13 で、「防犯対策として行っていること」と、「できそうな防犯対策」について質問し、全体集計は前々ページのとおりであった。

問 12 の「防犯対策として行っていること」について地域的に見ると、大曽根、篠原、高田地区で全般的な取り組みが盛んで、「戸締まり程度」は平均と変わらないが、「死角を少なくする対策」がそれぞれの地区で 46.4 %、44.7 %、42.3 %と平均を 10 ポイント以上上回っていた。逆に、新羽、師岡地区では全体的取り組みが弱く、「死角を少なく」が 16.4 %、28.4 %と低いことが原因で、樽町地区では「自宅の防犯対策」が 50.9 %と最も高くなっているものの「死角を少なくする対策」が 23.6 %と低かったため全般的な取り組みが低くなって表れていた。

この取り組みを回答者の属性で見ると、性別、居住歴別、就労状況別などでは大きな変化が見られなかった。

年齢別に見ると、「30 歳未満」の取り組みが最も低く、加齢に従って高くなっていき、「70 歳以上」では「自宅の防犯対策」「死角を少なくする対策」などの取り組みで平均を 5 割以上の方が行っていると答えていた。

住居の形態別では「持ち家・一戸建て」の世帯での全般的な取り組みが高く、「死角を少なくする対策」が 6 割弱と平均を 24 ポイントも高くなっていた。持ち家でも「マンションなど」では取り組みが低く、特に「賃貸（マンションなど）」で低くなっていた。

家族構成別では、「親と子と孫（3 世代）」では全般的な取り組みが最も高く、「夫婦だけ」「親と子（2 世代）」の順で取り組みが下がって行き、「ひとり暮らし」では全般的な取り組みが最も低くなっていた。

図 問12 防犯対策で行っていること (複数回答)(地域別)

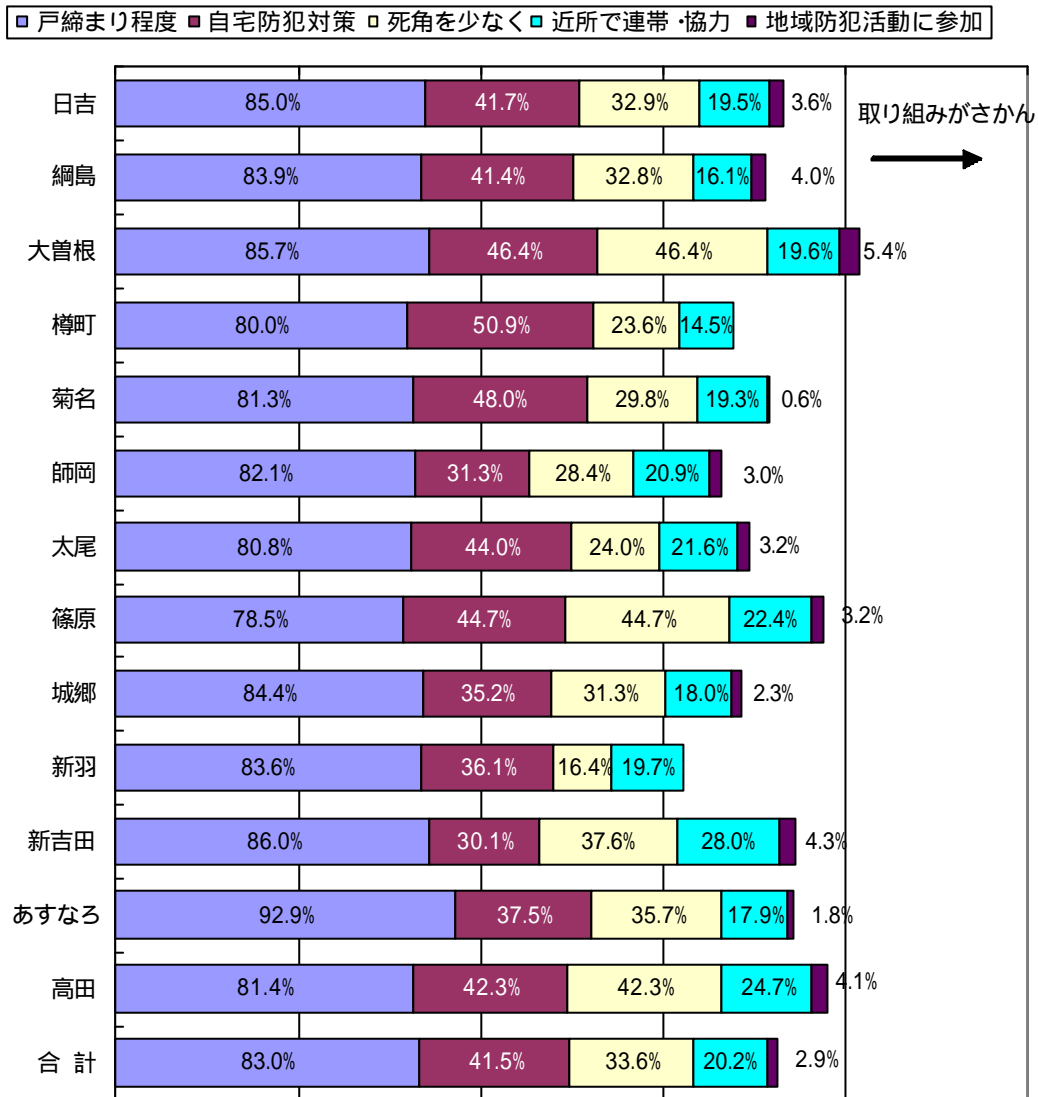
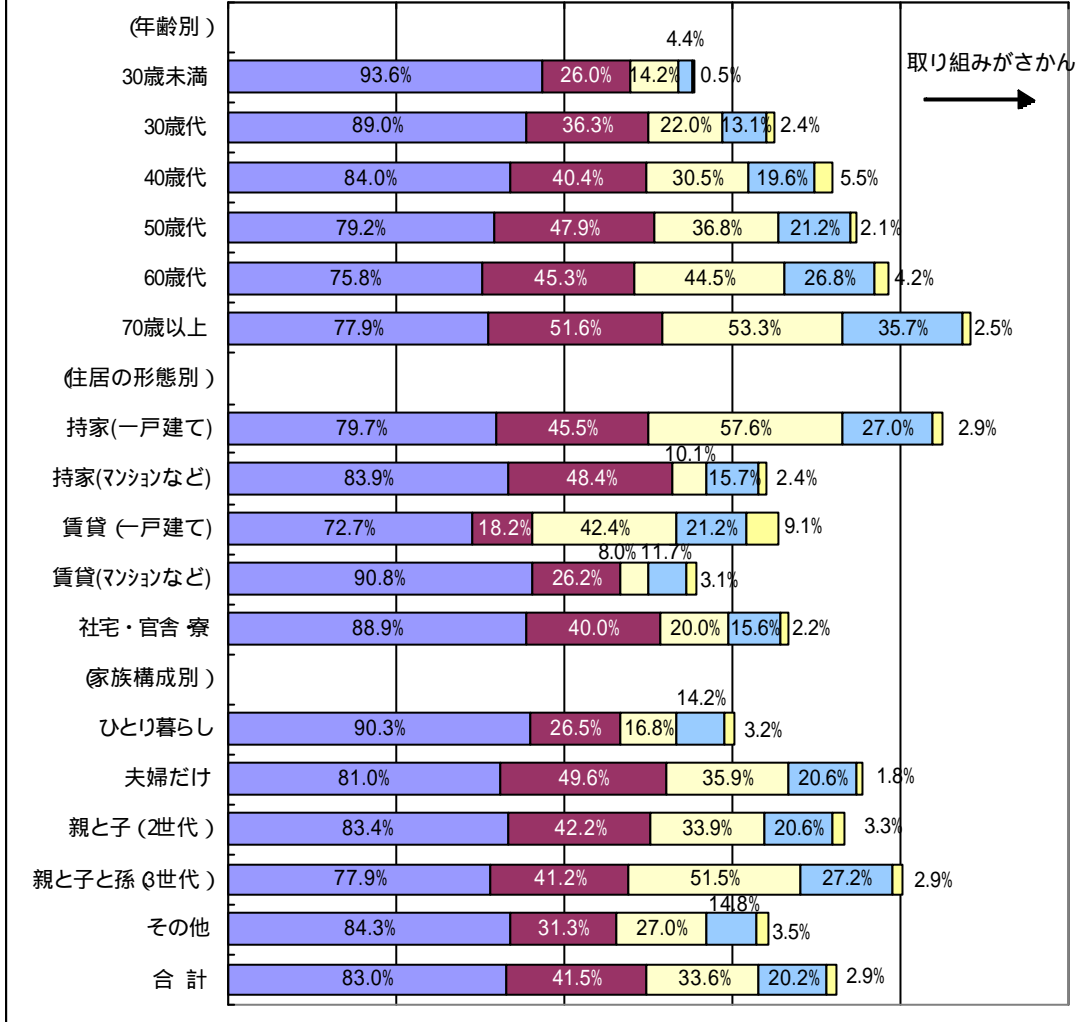


図 問12 防犯対策で行っていること (複数回答)  
(年齢別 住居の形態別 家族構成別)

□ 戸締まり程度 ■ 自宅防犯対策 □ 死角を少なく □ 近所で連帯・協力 □ 地域防犯活動に参加





問 13 の「できそうな防犯対策」を地域別に見ると、大曽根、篠原、高田地区で全般的な取り組みが高く、特に「隣近所と協力・連帯」でそれぞれ 60.1 %、57.1 %、60.8 %で高くなっているのが特徴的であった。逆に、新羽地区で取り組みが低く、「自宅の防犯対策」「死角を少なくする対策」が平均を 16 ~ 17 ポイント低くなっているのが特徴的であった。

「できそうな防犯対策」について回答者の属性で見ると、男性より女性が「できそうな防犯対策」は高くなっており、特に「隣近所と協力・連帯」が男性より 10 ポイント高くなっていた。

年齢別では、「50 歳代」が最も高く、特に「死角を少なくする対策」が平均を 6 ポイント上回っていた。

住居の形態別では、ここでも「持ち家・一戸建て」が最も高く、「死角を少なく」と「隣近所と協力・連帯」がそれぞれ平均を 12 と 5 ポイント上回っていた。

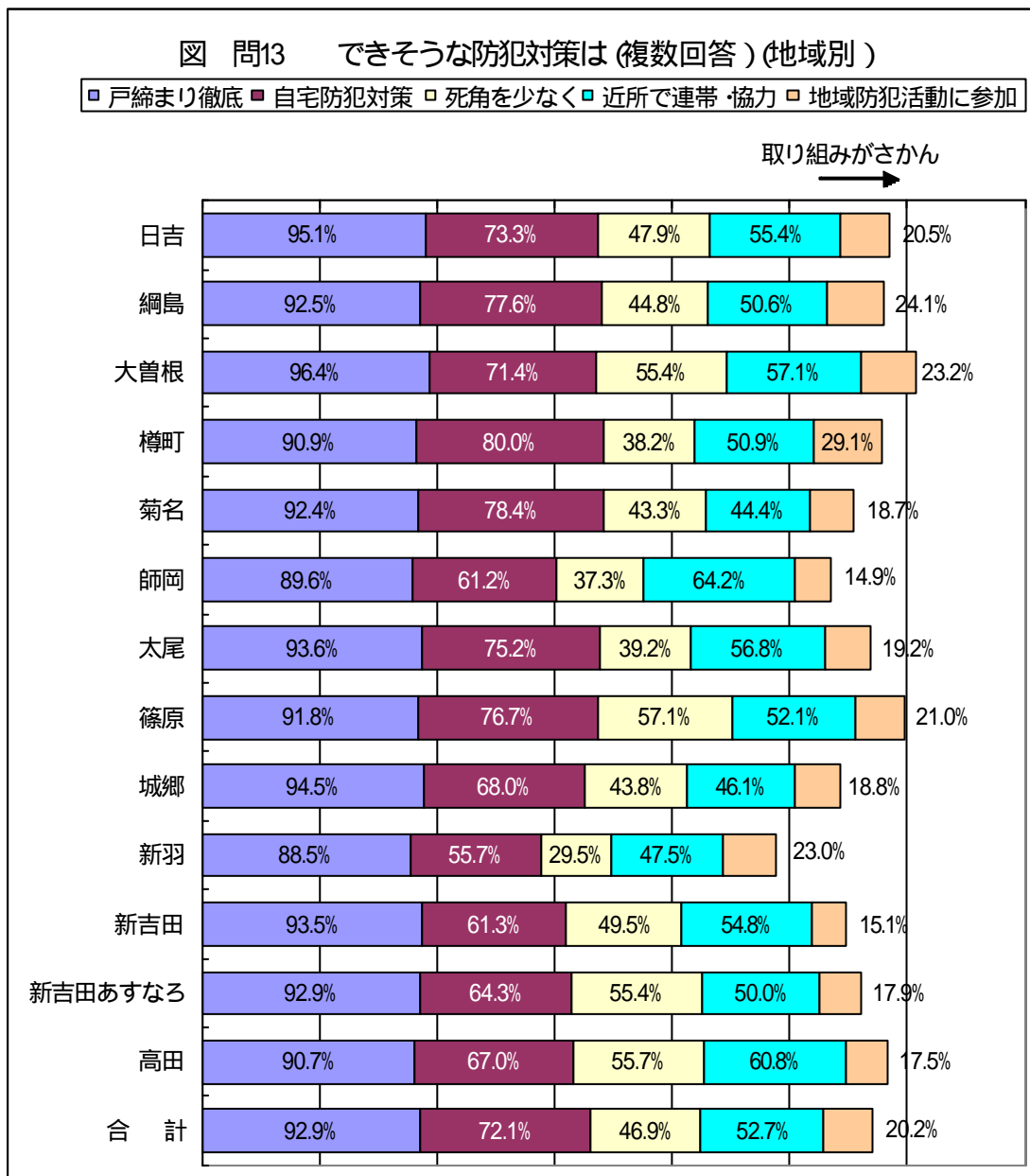
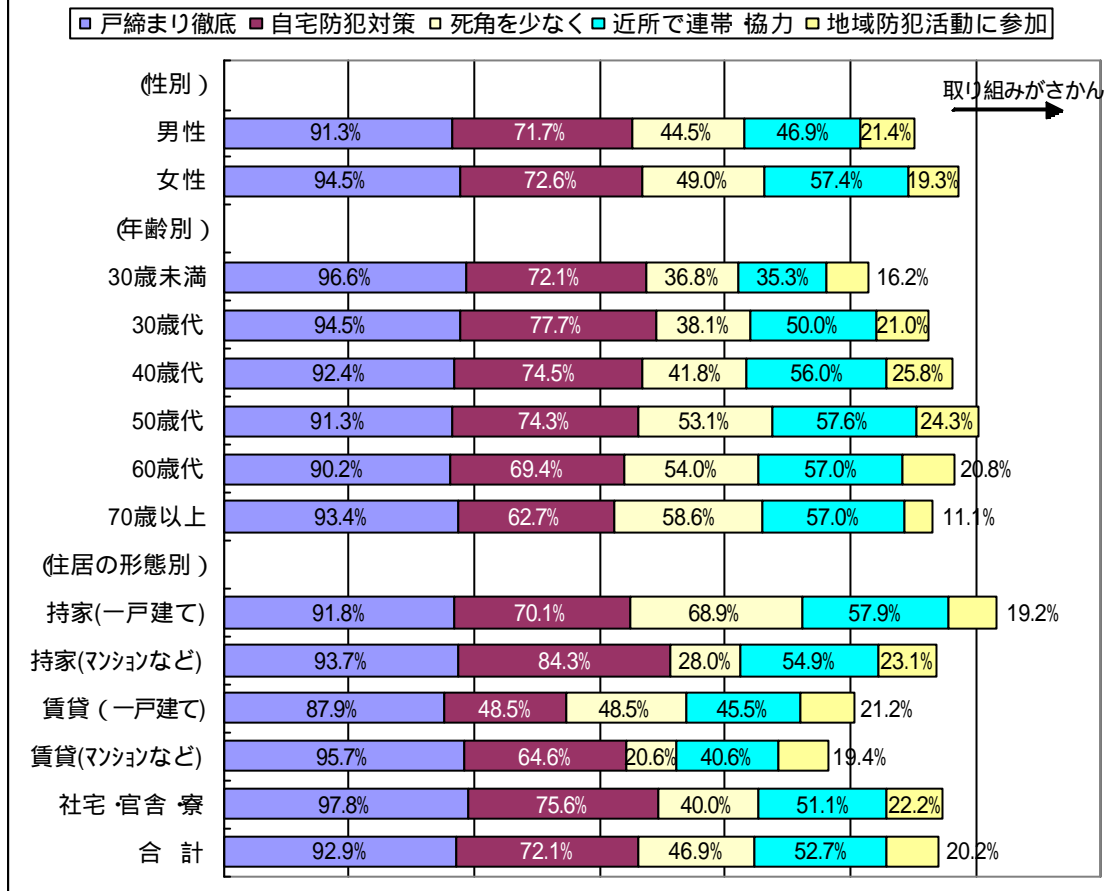


図 問13 できそうな防犯対策は (複数回答)  
(性別・年齢別・住)



問14 隣近所や地域と連携した防犯活動に参加したいですか。

(あてはまるものを1つ選んでください。)

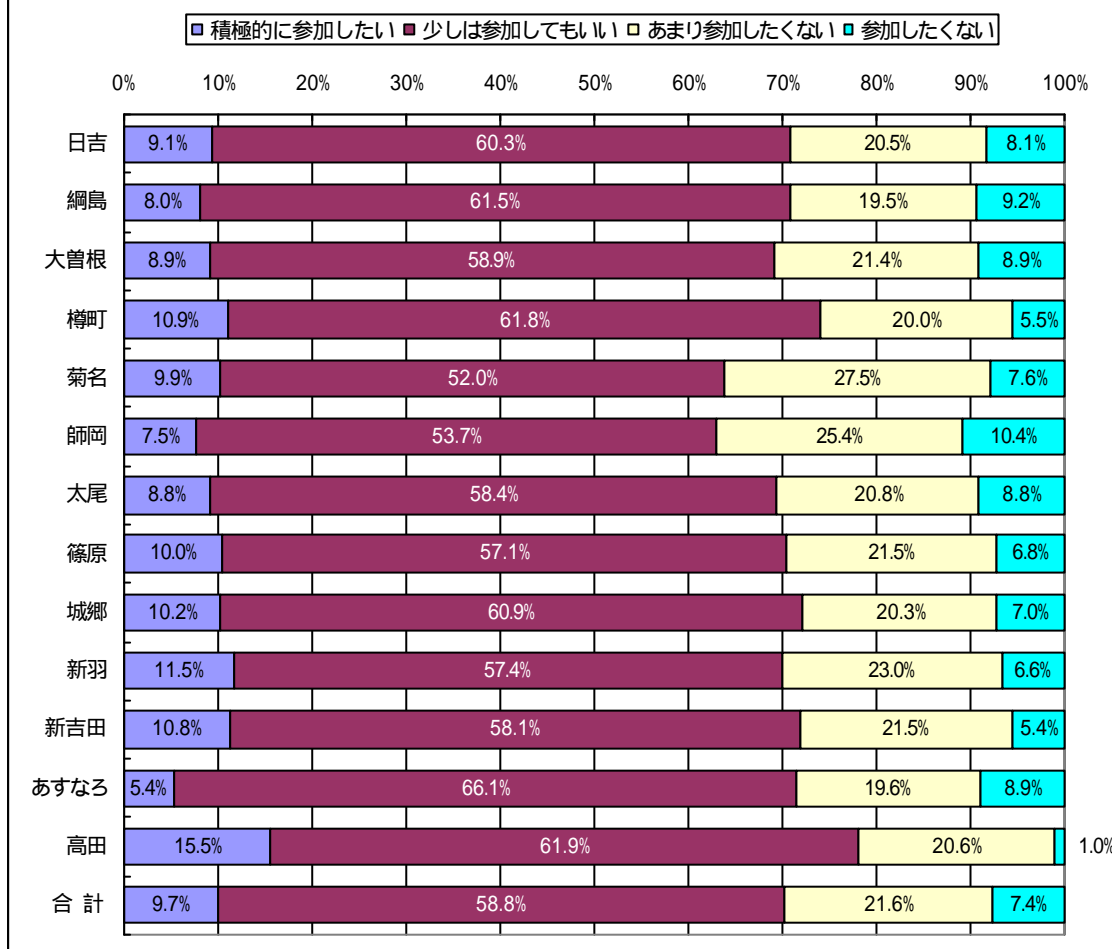
1 積極的に参加したい(している)	156	9.7%
2 少しは参加してもいい	946	58.8%
3 あまり参加したくない	348	21.6%
4 参加したくない	119	7.4%
無回答	40	2.5%

問14では、防犯活動への参加意欲について質問したが、「積極的に」「少しは参加してもいい」を合わせた「参加してもいい」が69.5%と7割に達していた。

これを地域別に見ると、高田地区で「参加してもいい」が77.4%と平均を7ポイントほど上回っているほか、大きな変化は見られなかった。

回答者の属性でも、「30歳未満」と「ひとり暮らし」の人が「あまり参加したくない」「参加したくない」をあわせた「参加したくない」が10ポイント以上高くなっていたほか、大きな変化は見られなかった。

図 問14 地域と連携した防犯活動に参加したいか (地域別)



問 14 の「地域の防犯活動への参加」する意欲について、問 19 の「自治会・町内会への加入」の有無とのクロス集計を行ってみた。

自治会・町内会へ参加している人は「地域の防犯活動への参加意欲」は「積極的に」「少しは」を合わせて「参加したい」人は 71.9 % で、自治会町内会に加入していない人の「参加したい」人の 60.1 % に対して 10 ポイントも高くなっていった。

図 問14×問19 地域の防犯活動への参加意欲と、自治会への加入

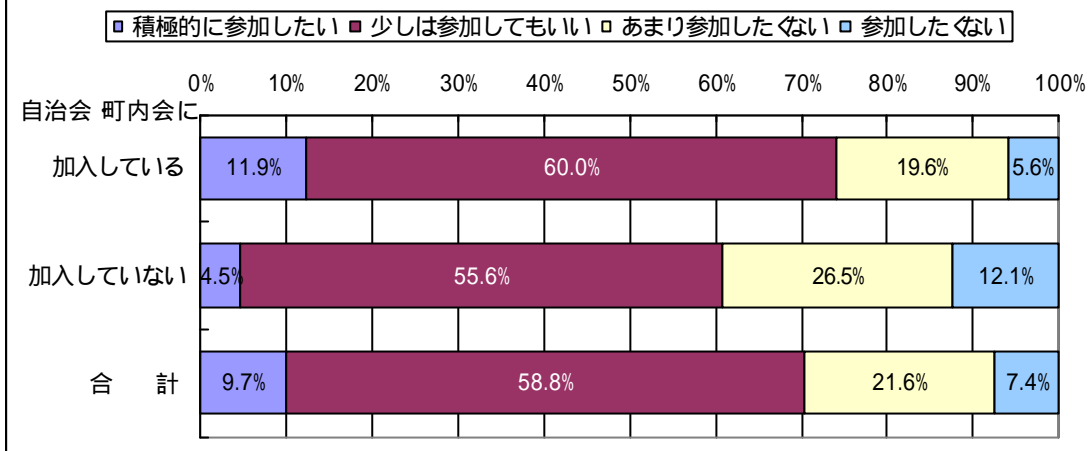


図 問14 地域と連帯した防犯活動に参加したいか

